

1. 授業の概要(ねらい)

実社会に出て職業の分野を問わず求められるのは、自分の周りで起きる事態や自らが直面する出来事を論理的に捉える的確な判断を下し、それに基づいて文章や口頭で筋道を立てて表現し、討議するという力です。秋期では、春期で受講生が身につけ始めた、論理的に考える習慣が確実に定着していくようにします。

そのための手段として、春期に引き続き、社会・政治・経済・国際問題から受講生にとって関心ある事柄を取り上げて解説し、質疑応答を行うという授業形式を取ります。

春期と同様に新聞の社説も適宜使用します。新聞社個々の特定の路線を普及しようというのでは毛頭ありません。社説は、折々の内外事象をテーマに取り上げていて、新聞記事の中でも最も論理構成がしっかりしているから、教材として最適なのです。社説を書き写す学習方法は、手を動かすことによって論理的な筆の運びを学んでもらうためであり、秋期でも継続します。

秋期ではさらに、受講生の論理的思考の習熟度を見ながらですが、討論形式を取り入れた授業を実施する可能性もあります。その場合は、提案や動議をめぐり賛否両論を戦わすという、英国の大学における弁論部の方式に倣って行います。

2. 授業の到達目標

秋期では、受講生が社会人としてやっていけるような論理的思考力の基礎固めを目指します。具体的には、論理的で平易な文章を書けるようになること、要領を得た説明、発表(プレゼンテーション)ができるようになること、そして、理想をいえば、議論の入り口ぐらいには立てるようになることです。ただし、論理的文章表現に重きを置く点は春期と変わりません。

3. 成績評価の方法および基準

春期と同じく、社会・政治・経済・国際問題に関する論考やインタビューなどを題材にその要点や自分の考えをまとめるレポート課題の提出を3～4回求めるほか、読解力を試す小テストを1回程度実施し、それらと、最後に行う授業内の小論文テストの出来具合を評価の二本柱に据え、さらに授業での受け答えぶりも加味して、成績を決定します。

4. 教科書・参考文献

教科書

春期と同様、授業で使う社説などの新聞記事、関連資料、レジュメなどの印刷物は毎回、こちらで選択し作成もして、そのコピーを配布します。

5. 準備学習の内容

春期に引き続き、レポート課題は、指定される次回ないしは次々回の授業までに必ず、そのテーマについて十分に調べて作成し提出するように心掛けてください。次回の授業で学ぶ事柄を予告することもありますので、その場合は予備知識を仕入れて授業に臨むことが大切です。

6. その他履修上の注意事項

毎回、一つの事象を取り上げ、それについて十分に講義しておいて、受講生との間で質疑応答を行うという授業形式を取ることが多くなります。したがって、受講生には授業に積極的に参加する姿勢が求められます。そうすることによって徐々に力がついていくと考えてください。

社説の筆写に必要な専用のノートか200字詰め原稿用紙ノートなどを用意してもらいます。国語の辞書や電子辞書も必須です。分からない言葉が出てきたらその都度、辞書を引くことが不可欠です。

7. 授業内容

- 【第1回】 春期小論文・課題テストの講評を通じて、文章表現と論理構成などについて学ぶ。
- 【第2回】 社会・政治・経済・国際的事象について理解を深めたくうえで質疑応答を行い、文章に表す方法を学ぶ(2020年度は広島への原爆投下をめぐる日米識者の見解を要旨にまとめる課題を作成、問題の論点を整理した)。
- 【第3回】 社会・政治・経済・国際的事象について理解を深めたくうえで質疑応答を行い、文章に表す方法を学ぶ(2020年度はオバマ大統領＝当時＝の広島訪問の意義と限界を、日米識者の見解を踏まえつつ考察した)。
- 【第4回】 社会・政治・経済・国際的事象について理解を深めたくうえで質疑応答を行い、文章に表す方法を学ぶ(2020年度は第2回授業課題の講評を受ける一方、原爆投下ないしはオバマ広島訪問に関する小論文を作成した)。
- 【第5回】 社会・政治・経済・国際的事象について理解を深めたくうえで質疑応答を行い、文章に表す方法を学ぶ(2020年度は新聞の連載記事を題材に、大学や高校における部活の在り方を改めて問い直してみた)。
- 【第6回】 社会・政治・経済・国際的事象について理解を深めたくうえで質疑応答を行い、文章に表す方法を学ぶ(2020年度は第4回授業小論文課題の講評を聴く一方、日本語での読解・表現力について識者見解を基に考えた)。
- 【第7回】 社会・政治・経済・国際的事象について理解を深めたくうえで質疑応答を行い、文章に表す方法を学ぶ(2020年度は「論理国語」新設に関する識者の論考を読み解き、その要旨をまとめる課題を作成した)。
- 【第8回】 社会・政治・経済・国際的事象について理解を深めたくうえで質疑応答を行い、文章に表す方法を学ぶ(2020年度は一橋大講演会中止に関連して憎悪表現か言論の自由かという問題を考え、自らの意見を提出した)。
- 【第9回】 社会・政治・経済・国際的事象について理解を深めたくうえで質疑応答を行い、文章に表す方法を学ぶ(2020年度は上記の意見と米国の大学での講演会中止例も踏まえつつ、言論の自由問題をさらに深く考察した)。
- 【第10回】 社会・政治・経済・国際的事象について理解を深めたくうえで質疑応答を行い、文章に表す方法を学ぶ(2020年度は日弁連の死刑制度廃止宣言を踏まえ、死刑制度の存置、廃止双方の主張の論点を整理した)。
- 【第11回】 社会・政治・経済・国際的事象について理解を深めたくうえで質疑応答を行い、文章に表す方法を学ぶ(2020年度は第7回授業課題の講評を受け、死刑をめぐる2社説の1つを批判的に論評する課題を作成した)。
- 【第12回】 社会・政治・経済・国際的事象について理解を深めたくうえで質疑応答を行い、文章に表す方法を学ぶ(2020年度は日本人ジャーナリスト拘束・解放事件をめぐる自己責任論の可否を考え、自らの意見を提出した)。
- 【第13回】 社会・政治・経済・国際的事象について理解を深めたくうえで質疑応答を行い、文章に表す方法を学ぶ(2020年度は第11回授業課題の講評を聴くとともに、識者見解も参考にして自己責任論をさらに深く考察した)。
- 【第14回】 秋期授業のおさらいと授業内小論文テスト
- 【第15回】 第8回目の週にLMSによるオンライン授業を受け、社会・政治・経済・国際的事象について理解を深め、文章に表す方法を学ぶ。